

高校生の国際交流の促進について

令和 2 年 7 月 2 9 日

文部科学省総合教育政策局教育改革・国際課

高校生の国際交流の促進について



【背景】

グローバル化が進展し、グローバル人材の育成が更に求められている中、各学校段階において、グローバル人材育成に向けた取組を支援する必要がある。

特に、義務教育後、ほとんどの子供が通う高等学校段階にあっては、子供の発達段階や学校段階特有の柔軟性を踏まえ、留学支援を含めた学校等の取組を支援していくことが重要。

【現状】2017年度時点における高校留学者数は約4.7万人。

留学を希望しない理由としては、言語の壁（47.6%）、魅力を感じない（39.9%）、経済的に厳しい（34.8%）。

【目標】日本人高校生の海外留学生数を6万人に（第3期教育振興基本計画）。

【支援内容等】

高校生の留学支援

国費高校生留学促進事業

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース

外国の高等学校での履修を校長の判断で単位認定可（36単位まで）

都道府県・学校等の組織的な留学促進の取組や個人単位での留学を経済的・制度的に支援！

国際交流・留学環境整備

都道府県における高校生留学を推進するための啓発活動や留学支援員の配置等の必要な経費の支援

都道府県における留学施策の推進や機運醸成に寄与！

高校における外国人留学生の受入れ促進

異文化理解ステップアップ事業

アジア高校生架け橋プロジェクト

日本語を学ぶ外国人高校生の日本の高等学校への受入れ促進！
多くの日本の高校生が海外に行かずして国際交流等を経験可能に！

グローバル人材の育成に積極的に取組む学校への支援

「スーパーグローバルハイスクール」の指定

WWL（ワールド・ワイドラーニング）コンソーシアム構築支援事業・
地域との協働による高等学校教育改革推進事業の実施

地域における関係機関との連携を含めた学校単位でのグローバルリーダーの育成を支援！

外国語教育の充実

外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動の充実を図った新学習指導要領の実施に向け、周知・徹底

「総合的な学習の時間」等における国際理解教育の実施

現在、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、特に国際交流事業について、我が国の水際対策の状況や各国等の入国制限措置等の状況を見つ、今後の方針について検討・対応しているところです。高等学校段階におけるグローバル人材育成のため、指定校・拠点校におかれましては、特に、高校生留学の機運を絶やさぬよう、御協力等お願いしたいと存じます。

平成29年度 高等学校等国際交流状況等調査の結果概要

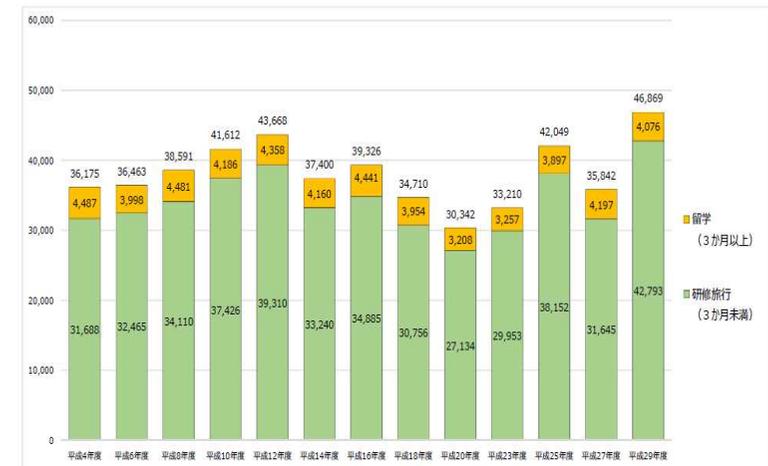
政府目標である「第3期教育振興基本計画」における数値目標（令和4年度に日本人高校生の海外留学生6万人）の数値となる、高校生の留学生数は4.7万人となり、前回調査時（平成27年度）の3.6万人から1.1万人増加し過去最高。このうち、研修旅行（3か月未満）が前回調査時の3.2万人から1.1万人増加し4.3万人となっており、比較的短期の国際交流の増加が留学生数全体の増加につながっている結果となった。

また、それ以外の高校生等の派遣及び受入れ人数に係る調査項目についても概ね増加傾向であり、上位の行先や出身の国・地域の傾向に変化は見られなかった。

高校生の海外への留学・研修旅行について

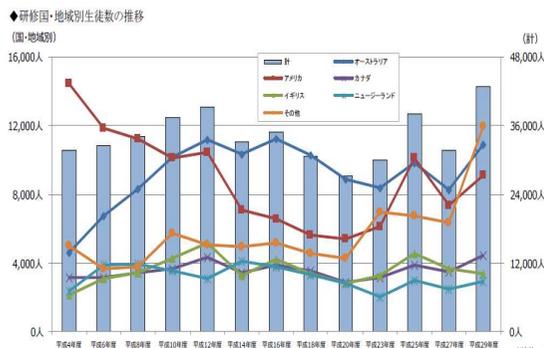
- 高校生の外国への研修旅行（3か月未満）
 - ・42,793人（11,148人増）[前回調査：31,645人]
- 高校生の留学（3か月以上）
 - ・4,076人（横ばい）[前回調査：4,197人]
- 高校生の外国への修学旅行
 - ・179,910人（14,981人増）[前回調査：164,929人]

留学・研修旅行を合わせて合計4.7万人。過去最高となった。



	平成4年度	平成6年度	平成8年度	平成10年度	平成12年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
留学 (3か月以上)	4,407	3,998	4,481	4,186	4,358	4,160	4,441	3,954	3,208	3,257	3,897	4,197	4,076		
研修旅行 (3か月未満)	31,688	32,465	34,110	37,426	39,310	33,240	34,885	30,756	27,134	29,953	38,152	31,645	42,793		
合計	36,175	36,463	38,591	41,612	43,668	37,400	39,326	34,710	30,342	33,210	42,049	35,842	46,869		

外国への研修旅行（3か月未満）



留学（3か月以上）



平成29年度 高等学校等国際交流状況等調査の結果概要

外国からの留学・研修旅行の受入れについて

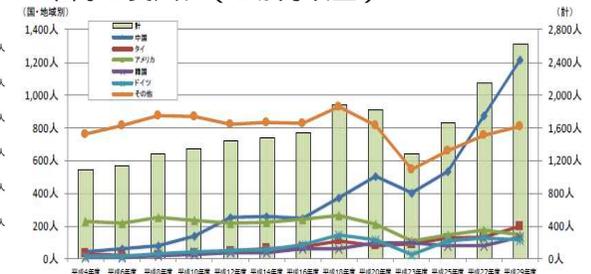
高等学校等における外国からの研修旅行生（3か月未満）の受入れ

- ・3,448人（738人減）[前回調査：4,186人]
- 高等学校等における外国人留学生（3か月以上）の受入れ
- ・2,621人（474人増）[前回調査：2,147人]
- 高等学校等における学校訪問を伴う外国からの教育旅行の受入れ
- ・39,531人（6,730人増）[前回調査：32,801人]

研修旅行の受入れ（3か月未満）

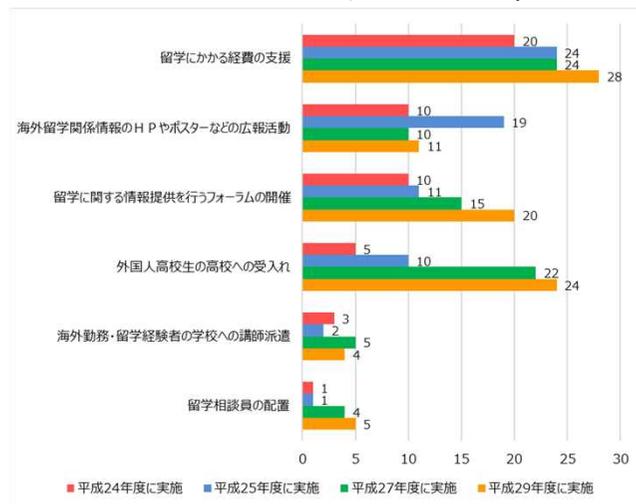


留学の受入れ（3か月以上）



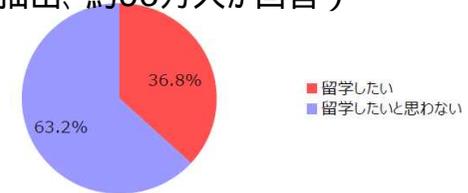
高校生の留学支援等に関する都道府県の実施状況

平成29年度に高校生の留学支援または留学環境整備に関する取組を実施したのは46都道府県にのぼる。



高校生の留学に対する意識について

高校生のうち、約4割が「留学したい」、約6割が「留学したいと思わない」と回答。（無作為抽出、約53万人が回答）
海外に留学したいと思うか



海外に留学したい理由



海外に留学したいと思わない理由



その他調査項目

外国の学校との姉妹校提携について

- ・1,219校（110校増）[前回調査：1,109校]

高等学校等における英語以外の外国語科目開設状況について

- ・677校・18言語（前回調査同）

社会総がかりで行う高校生国際交流促進事業

令和2年度予算額
(前年度予算額)

165百万円
128百万円)



世界で活躍できるグローバル人材を育成するため、高等学校段階における留学経費の支援を行うとともに、都道府県における国際交流・留学環境整備の推進等を図る。

国費高校生留学促進事業

補助対象：都道府県

123百万円（前年度：87百万円）

自治体、学校、民間団体等による短期留学プログラム()への参加に係る留学経費を支援し、保護者負担を軽減。

()語学留学に加えて、現地でのインターンシップや、文化、スポーツ、ボランティア等のプログラムも対象。

支援金額 短期(原則10日以上1か月未満) 1人6万円×2,000人

(参考)「トビタテ！留学JAPAN」高校生コース：14日以上1年以内



グローバル人材育成の基盤形成事業

国際交流・留学環境整備事業

補助対象：都道府県

10百万円（前年度：10百万円）

高校生留学を推進するための啓発活動や研修などを各都道府県で開催し、留学機運の醸成を図る。

支援金額：500万円程度×2か所

各都道府県の事情に応じ、表中の取り組みを複数組み合わせることで効果的に施策を推進。

【メニュー組み合わせ例】

	啓発活動 (イベントの実施、パンフレットの作成・配布等)	留学支援員の配置	教員向け研修	その他 (生徒の事前・事後研修等)
A県				
B県				

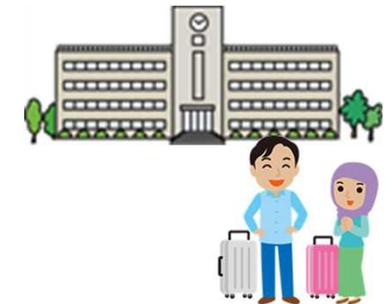
異文化理解ステップアップ事業

補助対象：民間団体

32百万円（前年度：31百万円）

日本語を学ぶ外国人高校生を、民間団体を通じて日本の高等学校に短期招致。受入先高校での国際交流を通し、高校生の国際的視野の涵養を図る。

対象：117人(6週間程度)



官民協働海外留学支援制度

～トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム【高校生コース】～概要



「グローバル人材育成コミュニティ」に参画する企業からの支援により、「産業界を中心に社会で求められる人材」、
「世界で、または世界を視野に入れて活躍できる人材」の育成を目的に、平成27年度より高校生等への支援を開始。早期からの留学機運を高めています。

<特徴>

- 官と民が一体となってグローバル人材育成のために、様々な留学を支援。
- 民間企業からの寄付金(246社・団体 約118.3億円(令和2年1月22日現在))による、充実した奨学金。
- 留学の支援だけでなく、質を高めるために壮行会、事前・事後研修、派遣留学生ネットワークを提供。
- 留学先において日本の良さを発信するアンバサダー活動、帰国後に自らの経験を還元することで、新しい留学文化を醸成するエヴァンジェリスト活動を行う。

1. 支援実績



令和2年度(第6期)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により採用手続を中止した。

2. 支援の内容

支援内容 : 研修参加費、奨学金(往復渡航費、授業料、現地活動費)を支給
留学期間 : 14日間以上、1年間(365日間)以内



【第6期 募集分野・内容および支援予定人数(計800名)】

アカデミック(テイクオフ) 360名【14日～21日間】
語学学校等のプログラムに参加し、外国語を用いて異文化交流を行う

アカデミック(ショート) 120名【14日～106日間】
高等学校や大学のサマースクール等に参加し、外国語を用いて様々な専門科目を学修

アカデミック(ロング) 20名【107日～365日間】
高等学校等に長期間通学し、外国語を用いて様々な科目を学修

プロフェッショナル 100名(うち未来テクノロジー人材枠60名)
【14日～106日間】
観光、IT、調理等のキャリアカレッジ等での学修、農場や工場等の実地研修、インターンシップ等に参加
未来テクノロジー人材枠
数理情報科目やITの素養を持ち、テクノロジー領域(プログラミング、ブロックチェーン技術、制御技術、ロボティクス、Webサービス・デザイン、モバイルアプリ開発等)に関する学修に参加

スポーツ・芸術 100名【14日～106日間】
トレーニングセンター、教育機関、芸術学校等に通学し、技量の向上を図る

国際ボランティア 100名【14日～106日間】
NGO等が主催する支援活動に参加するほか、国際協力について関係機関で学ぶ

アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を日本全国の高校に招聘。 日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深める。 < 今後5年間で1000人規模の交流を実現 >

第23回国際交流会議「アジアの未来」総理大臣スピーチ(2017.6.5) < 抜粋 >

「日本語を学ぶアジアの高校生たちに、10か月、日本で暮らせる機会を提供します。
規模は今後5年で1000人。」



< ポイント >

- ☑ アジアの高校生を日本全国の高校に招聘
- ☑ 2020年度は200名を10か月招聘
(2018年度:100名×6か月、2019年度:200名×8か月招聘)
- ☑ 日本各地でホームステイや寮生活をしながら日本の高校で勉強
- ☑ 休日には文化体験、地域交流、国内企業でのインターンシップ等



期待される効果

多くの日本の高校生が、海外に行かずして国際交流を経験

1クラス40人 × 1000人
= 40,000人が国際交流!

海外の若者が日本の生きた「教育」、「文化」等を体験

日本の高校生の留学意欲や国際的素養の向上

日本とアジアの高校ネットワークの構築

互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成

アジア高校生架け橋プロジェクトの成果

2020年7月時点



文部科学省

概要

アジア諸国で日本語を学ぶ優秀な高校生を半年から10カ月程度、日本全国の高校に招聘。日本各地でホームステイや寮生活をしながら日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深める。休日には文化体験、地域交流、国内企業での体験学習や視察等も実施。互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成を目指す。

1期生100人、2期生200人の来日の実現（目標：5年間で1,000人を招聘）

招聘生の帰国後の進路

日本の大学・専門学校に 進学または合格	… 12人
母国の大学で 日本語・日本文化を専攻	… 1人
日本の大学に進学希望	… 9人
奨学金獲得を前提に日本の 大学・大学院へ留学を希望	… 約30人
招聘生（1期生100人）の 半数が日本への進学等を希望	

招聘生への影響（コメント抜粋）

プロジェクトが学業・キャリアに及ぼした影響

「留学中に文化の研究や国際分野により興味を持ちました。異なる背景を持つたくさんの人との出会いを通じて、人々をつなぎ幸せをもたらす架け橋になりたいという夢ができました。この架け橋事業だからこそできたことです。」

（インドネシア、18歳）

日本への進学や国際的な活動への従事を希望する意見

プロジェクトに対するメッセージ

「日本での一生に一度の夢のような経験が得られたと感じています。このプロジェクトが子どもの心を世界へと広げる素晴らしいものであり続けてほしいです。」

（ラオス、19歳）
プロジェクトへの高評価、継続を希望する意見

受入校への影響 公益財団法人AFS日本協会による調査より

招聘生の出身国に対する理解度の高まり

「日本との違いや共通点に生徒たちは興味を持った」
「宗教に関する理解が深まった」
「所属学年の集会では、自国の文化について講演を行うことで、より関心が高まった」

受入校の83%が在校生の間で出身国への理解度の高まりを感じたと回答

留学に対する意識の変化

「積極的に自分も留学に参加したいという生徒が増えた」
「留学生の英語力の高さや、日本語能力の上達を見て、英語をより勉強しなければならないと刺激を受けたよう」

受入校の73%が留学に対する意識の変化を在校生から感じたと回答

**架け橋プロジェクトを通じて、日本とアジア諸国との相互理解を深め
アジアを繋ぐグローバルリーダーの育成を効果的に促進することが可能になる**

高等学校における外国留学時の単位認定について

留学中の外国の高等学校における履修について、校長が国内の高等学校における履修とみなし、単位認定できる制度があります。

上限は36単位

1年間留学しても、3年間で卒業できるんだ！

【参考】 高校卒業要件として規定されている最低単位数：74単位

長期留学(3カ月以上)をした留学生の約77%がこの制度により単位認定を受けています。

「平成27年度 高等学校等における国際交流等の状況について」より



学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)(抄)

第93条 校長は教育上有益と認めるときは生徒が外国の高等学校に留学することを許可することができる。

2 校長は、前項の規定により留学することを許可された生徒について、外国の高等学校における履修を高等学校における履修とみなし、36単位を超えない範囲で単位の取得を認定することができる。

3 (略)

第96条 校長は、生徒の高等学校の全課程の修了を認めるに当たっては、高等学校学習指導要領の定めるところにより、74単位以上を修得した者について行わなければならない。(略)